

まつぼっくり



宇城市立三角小学校
学校だより 第22号
文責 校長 西村羊治
令和7年6月16日

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

学校訪問

先日、宇城教育事務所の学校訪問がありました。竹下所長様、宮本指導課長様、西野管理主事様が来校してくださいました。私は4年前から指導主事として2年間学校に訪問する側を経験し、その後校長として訪問を受け入れる側として3年目になります。訪問する場合は、子どもたちや先生方の「頑張りや努力、笑顔を見ることができるチャンスです。」訪問してもらう場合は、子どもたちや先生方の「頑張りや努力、笑顔を見せることができるチャンスです。」今回私にとって、本校で初めての学校訪問でしたが、上記のことができたと自負しております。子どもたちが安心して気持ちよく学校で生活できる環境をつくるのは、教師にとって当たり前のことです。しかし、それができているかは、学校のみだけで判断すると間違えることがあるかもしれません。「教師の常識は世間の非常識」と言われることがあります。これは誰かの造語だとは思いますが、本当にそれはあると思います。私が行政職を経験した2年間はまさしくそうでした。教頭の時は、市教育委員会から来る大量の文書に正直まいっていました。処理や対応にとっても時間がかかり、くたくたになっていたことを思い出します。しかし、子どもと触れあう時間や草刈りの時間はあったし、それを楽しんでいたことができていました。しかし、市の教育委員会（行政）に勤務させていただいたときは、違いました。子どもはいない、だから子どもと触れあうことはできない、まさしく大人社会でした。



文書を作るのにも何人もの人にチェックいただき、許可の印鑑をもらうだけでも半日もかかることもありました。また、電話の対応、各学校・保護者・地域の方・県外の方、直接来庁される方の対応も多々ありました。学校に届く何倍もの文書対応をしなければいけませんが、自分の目の前にある文書処理がスムーズにできません。要領が悪いと言えばそれまでですが、勤務時間内で仕事を終わらせることは、私の力量ではできませんでした。（もちろん行政職のやりがいも感じていました。）

そこで感じたのが、行政職の有り難さです。「日々行政の方々が一生懸命事務方としていろいろな職務を誠実に



に遂行しておられるから、学校現場の職員は、子どもたちと一緒に過ごすことができる。」このことは当たり前ではなく、有り難いことだと思えることができるようになりました。このことを忘れることなく、現場の校長として子どもたちとの時間を大切に楽しみながら職務を遂行していこうと再確認しているところです。いろいろなことで落ち度があるかもしれませんが、縁の下の方の力持ちの行政の方に感謝しながら、

襟を正していこうと思います。今回の学校訪問で改めて、三角小に勤務できるありがたさを感じております。宇城教育事務所の先生方、本当にありがとうございました。